

放送大学「生涯学習支援番組」（2024年度第4回制作）の
制作に係る提案募集について

次のとおり提案を募集します。

2024年9月24日

分任契約担当者

放送大学学園 財務部長 北原 文幸

記

1 提案を募集する事項

- (1) 件名 放送大学「生涯学習支援番組」（2024年度第4回制作）の制作業務
- (2) 仕様等 放送大学「生涯学習支援番組」（2024年度第4回制作）の制作業務仕様書（以下「仕様書」という。）のとおりに。

契約の案件の説明については、仕様説明書を送付する方法により行いません。

つきましては、仕様説明書の送付を希望される場合、下記の連絡先にご連絡をお願いいたします。

放送大学学園放送部放送管理課業務係 mail:gyoumu-k@ouj.ac.jp

※在宅勤務等で担当者が不在の場合がございますので、恐れ入りますがご連絡は必ずメールにてお願いいたします。

2 概算所要経費

仕様書のとおりに

3 応募者に必要な資格に関する事項

- (1) 「放送大学学園契約事務取扱規程」第4条及び第5条の規定に該当しないものであること。
- (2) 国や地方公共団体の機関において、取引停止又は指名停止の処分を受けているものでないこと。
- (3) 有効年度が令和6年度の「全省庁統一資格」において、関東・甲信越地域の「役務の提供等」のA,B,CまたはDの等級に格付けされている者であること。

4 提出書類等

『放送大学「生涯学習支援番組」(2024年度第4回制作)の制作に係る業者選定実施要領(以下「実施要領」という。)]による。

5 選定方法等

概算所要経費の範囲内において、有効な見積金額を提出した者の中から、放送大学「生涯学習支援番組」(2024年度第4回制作)に係る制作業者審査基準等に基づき、学園の評価担当者による提出書類等の審査を行う。

審査の結果、番組毎に、最も優秀と認められた業者を一者選定する。

なお、審査内容や経過に関する問い合わせには応じない。

6 契約について

契約書の作成を要する。

7 本件に関する問い合わせ先

〒261-8586

千葉市美浜区若葉 2-11

放送大学学園 放送部放送管理課業務係

MAIL gyoumu-k@ouj.ac.jp

8 提出書類等の提出先、提出方法及び提出期限

(1) 提出先 上記7と同じ

(2) 提出方法 郵送*による

(3) 提出期限 郵送：2024年10月9日(水)17時必着

※配送確認のとれる方法(例：書留等)で提出すること。

9 その他

(1) 提案に要する経費は、全て提案者負担とする。

(2) 提出された書類等は、返却しないものとする。

(3) 「3 応募者に必要な資格に関する事項」に定める資格を有しない者、提出書類に虚偽の記載をした者の企画提案は無効とする。

(4) 企画競争の結果については、各提案者に通知する。

放送大学「生涯学習支援番組」(2024年度第4回制作)の制作業務仕様書

1. 業務概要

放送大学学園(以下「学園」という。)のテレビ番組(以下「番組」という。)の構成・演出・収録・編集等の制作業務を行う。

本番組は、2024年度以降に放送予定のテレビ生涯学習支援番組である。

請負事業者は、学園が示す企画方針および計画に基づき、学園プロデューサー等と連絡・協議を行いつつ連携をとり、番組制作業務を遂行する。

2. 請負期間

仕様書別紙1のとおり

3. 制作する番組・本数・概算所要経費

仕様書別紙1~7のとおり

4. 番組制作業務の具体的内容、手順

1) 放送番組の演出

- ・出演講師、学園プロデューサー等と打合せによる内容原案を元に、演出方法及び内容を策定、実施

2) 内容検討・番組進行表の作成

- ・番組全体の構成案(項目、配列、時間、配分)策定
- ・映像・音声素材等の選定(ビデオ・写真・コメント等)
- ・出演者との内容・スケジュールの交渉(講師・ゲスト等)
- ・ロケーション先の選定、必要に応じた下見

3) ロケーション(国内)の実施と編集

- ・ロケーション(国内)に必要な要員の手配、機材の準備及びロケーションの実施
- ・出演者のヘアメイク及び衣装の手配
- ・ロケーション実施後の映像・音声の編集等、ポストプロ業務

4) 番組の素材資料の収集と作成

- ・動画・静止画・図版等の収集および作成。資料の収集にあたっては学園が推奨する素材(AFP)を優先的に選択する。なお、日本経済新聞社の著作物については使用を控えること(許諾条件の履行が困難であるため)。

5) 請負事業者による「放送大学学園著作物利用規程」に基づく権利処理(音楽等一部を除く)処理にあたっては、以下の点に留意のこと。

- ・学園が定める承諾書を出演者から受領すること。また、受領した承諾書はコピーを保管の上、原本は放送部放送管理課へ提出すること。
- ・番組出演者(学園の教員を除く)にかかる出演料、交通費等は、請負事業者が負担すること。
- ・上記4)の素材資料の放送(マルチ編成含む)等利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理を行い、それに伴う費用は請負事業者が負担すること。
- ・放送(衛星、CATV等による同時放送を含む)・インターネット配信(学園のウェブサイト上での一般向け公開。告知用動画においては、YouTube等外部ウェブサイト上での公開にも対応のこと。ストーリーミング方式であって、在外学生向けを含む。)の利用許諾を得ること。

- ・学習センター等への DVD 配架等の番組の二次利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理を行うこと。
 - ・権利処理及び利用した素材（音楽及び上記 3）等に伴う出演者並びに上記 4）含む）等の記録報告を学園所定の書式（「著作権処理業務完了報告書」及び「楽曲使用報告書」）にて紙及び電子媒体で行うこと。
- 6) 美術セットの調達と操作
 - ・大道具・小道具、生花木の調達及び操作
 - 7) タイトル、テロップ・パターンの制作等
 - ・タイトル、テロップ・パターンのデザイン及び制作
 - ・CG・アニメーションの作成及び操作

番組の告知用動画の開始タイトル及び終了タイトルの表示方法は、別途学園プロデューサー等の指示に従うものとする。
 - 8) 番組の試写
 - ・学園プロデューサーによる完成前試写及び指示に応じた修正作業
 - 9) 放送用台本の作成、印刷
 - ・放送用台本の作成及び印刷
 - 10) 音響効果
 - ・番組に関わる選曲および効果音制作等
 - 11) スタジオ収録及び収録時の副調整室及びフロアでの指揮
 - ・スタジオ収録に関わる各種伝票処理
 - ・出演者・技術スタッフとの収録打合せ
 - ・ドライ、カメラリハーサル
 - ・学園プロデューサー等の検査後、ディスク等引渡し
 - 12) 広報用写真の作成
 - ・画像例
 - ・番組タイトル画像
 - ・各出演者のバストショット画像
 - ・出演者全員が映っている画像
 - ・番組イメージの分かるグラフィック画像等
 - ・画像サイズ1920×1080、画像形式は学園プロデューサーの指示に従う
 - ・学園ウェブサイトでの掲載・ニュースリリース配信等のネット利用のための著作権処理を行っているもの
 - 13) 後処理、手直し等
 - ・資料の整理
 - ・伝票の整理
 - ・番組制作に使用した素材テープ等の入庫整理
 - ・納品後、番組の手直しについて、請負事業者の責めに帰すべき理由によるものは、請負代金に含むものとする。
 - 14) 上記各項目の業務遂行のために必要な打合せ参加
5. 番組制作業務に必要と想定される職種及び人数
- 請負事業者は、学園プロデューサーと協議のうえ、当該業務を適切に遂行できるよう各業務内容に応じ必要な専門知識を有する者を手配するものとする。

6. 学園施設・機器等

- 1) 収録は学園のテレビスタジオを使用することができる。その場合、収録に係わる業務に必要な技術要員は、学園で措置する。
- 2) 完成素材収録用 XDCAM メディア、スタジオ収録用 XDCAM メディア、番組審査試写用 DVD-R、番組編成業務用 DVD-R は必要な数を貸与する。
- 3) 請負事業者が手配・調達するものは以下の通り。
 - 学園スタジオでの収録時に必要な要員（技術要員を除く）○ロケ（要員および機材）
 - オフライン編集（要員および機材）○音響効果（要員および機材）○スタジオ大道具・小道具、道具操作
 - メイク ○衣装(スタイリスト)
- 4) 上記に含まれないものについては学園と請負事業者が協議の上で決定する。

7. 記録媒体等

学園が使用する記録媒体は XDCAM メディアであり、記録媒体の学園外への持ち出し及び学園への持ち込みについては、全て XDCAM メディアで対応すること。

8. 学園への納入物品の取扱い

次の完成物を番組の種別ごとに記載された数量を履行期限までに①～④を制作部へ、⑤～⑨を放送部放送管理課へ納入し、学園職員による検査を受ける。なお、納入物品は**学園技術フォーマット**（別添の「テレビ制作技術基準」を参照）に準拠すること。

	生涯学習支援番組 (1番組あたり)	告知用動画 (1番組あたり)
① 放送用本番素材記録XDCAMメディア	1本	1本
② クリーンピクチャー収録XDCAMメディア	1本	1本
③ 番組審査試写用DVD-R	1本	1本
④ 番組内容確認用DVD-R	1本	—
⑤ 放送用台本電子媒体	1式	—
⑥ 広報用写真電子媒体	1式	1式
⑦ 著作権処理業務完了報告書※ (紙及び電子媒体)	1式	1式
⑧ 楽曲使用報告書(紙及び電子媒体)※	1式	1式
⑨ 出演者から受領した承諾書の 原本 ※ (「4. 番組制作業務の具体的内容、手順」の5)を参照のこと)。	1式	

※学園所定の書式で提出すること。

9. 番組制作業務完了の報告

請負事業者は、業務完了後「番組制作業務完了報告書」を放送部放送管理課に提出すること。

10. 請負代金の請求・支払

請負事業者は、8及び9の検査に合格したときは、請負代金を学園に請求する。
学園は、適法な請求書受理後、40日以内に財務部経理課から支払うものとする。

11. 著作権の帰属等

- 1) 制作した番組（放送用利用分以外の番組収録素材を含む）に関する著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む。）は学園に帰属する。
- 2) 番組は、学園の著作名義で公表する。
なお、制作協力等の表示は、学園の基準によるものとする。
- 3) 学園は、番組等及び関連素材を必要により改変して使用することができる。
- 4) 上記各項目は、許諾を得た第三者の権利の帰属に影響を及ぼさない。

12. 業務内容の変更等

- 1) 本仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、請負事業者の責任において履行するものとする。
- 2) 予期することができない状態の発生など、業務内容を変更せざるを得ない場合には、学園と請負事業者が協議の上で、業務内容を変更することができる。
- 3) 業務内容が変更された場合には、請負代金についても協議の上、変更することができる。

13. 安全の確保

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、請負事業者の従業員を直接指揮命令する者（以下、「現場責任者」という。）を必要に応じて1名以上選任し、任務に当たらせるものとする。
- 2) 現場責任者は、業務の実施の過程における安全対策について、請負事業者の従業員およびその指揮下にある全てのスタッフの安全確保に十分取り組むとともに、徹底を図る。

14. 業務の再委託等

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、業務の全部について、一括して第三者に請負わせたり、一括して第三者に再委託してはならない。
- 2) 業務の一部を第三者に対して、請負わせたり、再委託する場合、請負事業者は、あらかじめ、所定の事項について、学園に申請した上で、承認を得なければならない。

テレビ制作技術基準

別添

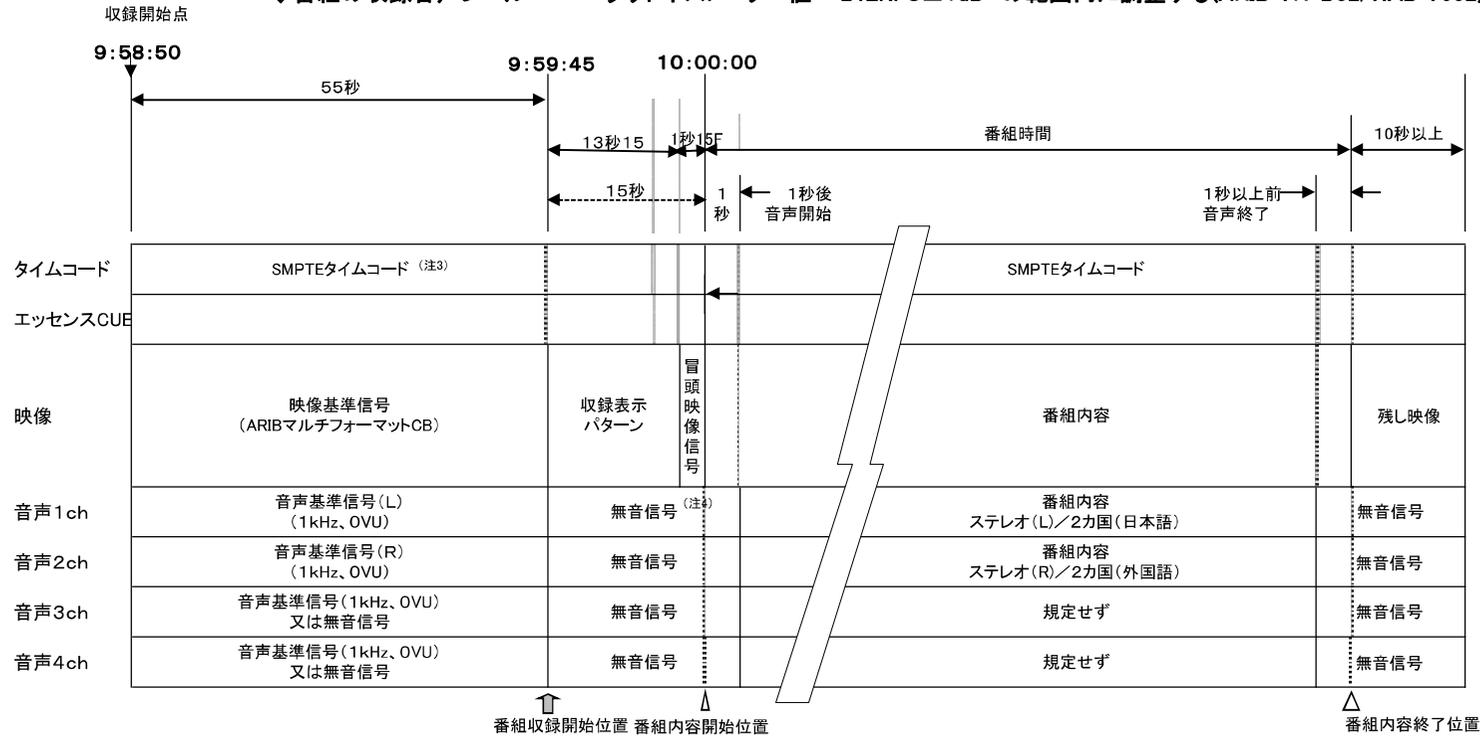
XDCAM-HDディスク放送用収録フォーマット

令和3年4月1日

◇映像:MPEG2 422P@50Mbps ◇音声:LPCM 48kHz 24bit 8ch ステレオ

◇MXFオペレーションパターン OP1a

◇番組の収録音声レベル ・ラウドネスメーター値 -24LKFS±1dB の範囲内に調整する(ARIB TR-B32/NAB T032)



* 予備SB(ステーションブレイク)は、1枚のディスクに複数本収録するが、それぞれが独立したファイルに1クリップで標準フォーマット収録する。

* 送出サーバー登録時、09:59:58:00からファイリングするため表示パターンを09:59:58:15まで記録する。

- 注1: ARIBマルチフォーマットカラーバーは「ARIB STD-B28」に準拠すること。
- 2: 音声基準信号は、OVU=基準量子化値(フルビットから20dB下がった値 -20dBFS)とする。
- 3: タイムコードトラックには、収録開始位置から連続したSMPTEタイムコードを記録すること。
- 4: 無音信号とは入力信号を絞りきった(無音の)音声信号が記録された状態をいう。
- 5: 番組試写終了後、TDまたは担当者がラウドネスメーター値を番組収録連絡票に記入すること。
- 6: デジタル音声のプリアンファシスは使用しないこと。
- 7: ディスクごとに「ワンクリップ」収録とすること。
- 8: 末尾のフィラー音楽開始については、1秒以上音声の空白を挿入すること。

別添

外部制作での完プロ制作における編集ソフトの考慮すべき項目

制作番組の完成品（完プロ番組）を放送大学学園に納入の際は、サーバ登録、送出、制作の観点から、下記の編集ソフトウェアを使用すること。

1. エディウス（GrassValley EDIUS）
2. プラナス（PRUNUS）
3. アビッドメディアコンポージャー（Avid Media Composer）

※書き出し時のエンコーダは「Avid Media 4.4.」を使用すること

4. ブラックマジックデザイン（Davinci Resolve+Main Concept）

なお、上記以外の編集ソフトウェアを使用する場合は、必ず、XDCAM ディスクにベースバンド収録して完成品とすること。

以上によらない場合は、あらかじめ学園の承諾を得ること。

制作する番組・本数・概算所要経費・請負期間

1. 生涯学習支援番組 6番組

No.	分類	題目名	放送（ネット配信含む）期間	概算所要経費（税込）	請負期間
1	BS キャンパス ex 特集	健康とスピリチュアリティ (45分×2本)	4年 40回	3,091 千円	契約締結日～ 令和7年2月28日
2	BS キャンパス ex 特集	放送大学教材を用いた先取り学習の可能性～千葉県立長生高校の挑戦～ (45分×1本)	4年 40回	1,716 千円	契約締結日～ 令和7年2月28日
3	BS キャンパス ex 特集	世界のアニメーション史と技術（仮） (45分×1本)	4年 40回	1,947 千円	契約締結日～ 令和7年2月28日
4	BS キャンパス ex 特集	芭蕉 最後の1年半—『おくのほそ道』から最後の句へ (45分×1本)	4年 40回	1,661 千円	契約締結日～ 令和7年2月28日
5	BS キャンパス ex 特集	ゆっくり学び、僕らは成長する～知的障害者のための高等教育～ (45分×1本)	4年 40回	2,590.5 千円	契約締結日～ 令和7年2月28日
6	スペシャル講演	スペシャル講演 (45分×2本)	4年 40回	2,596 千円	契約締結日～ 令和7年3月31日

2. 告知用動画（放送やネット配信等で利用する1分間の告知用動画） 6番組

No.	題目名	本数	概算所要経費（税込）
1	健康とスピリチュアリティ	2本	上記1に含む
2	放送大学教材を用いた先取り学習の可能性～千葉県立長生高校の挑戦～	1本	上記1に含む
3	世界のアニメーション史と技術（仮）	1本	上記1に含む
4	芭蕉 最後の1年半—『おくのほそ道』から最後の句へ	1本	上記1に含む
5	ゆっくり学び、僕らは成長する～知的障害者のための高等教育～	1本	上記1に含む
6	スペシャル講演	2本	上記1に含む

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

<p>1) 番組名(グループ名)</p> <p>BSキャンパスex特集</p>	<p>2) 個別番組タイトル</p> <p>健康とスピリチュアリティ</p>
<p>3) 放送回数、期間、マルチ展開など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年40回 ・インターネット配信公開講座(AOBA)へのマルチ展開を希望する 	<p>4) 番組尺、本数</p> <p>45分 × 2本</p>
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>人生を振り返り、生の意味や目的、死との向き合い方などを考える。これらの営みはスピリチュアル(霊的)な性質をもつものであるが、これまで日本の社会では十分な注意が払われてこなかった。また、実証的な科学知の射程を超えるものとして敬遠される傾向があった。しかし、超高齢社会の到来、また何万人もの生命を奪う大災害がいつ起きるかわからないいま、死生の問題はすべての日本人にとって目を背けることができないテーマとなっている。この企画では2回に分けて、スピリチュアリティ(霊性)に関わる基本的なことがらを整理して伝えるとともに、健康を追究するうえでスピリチュアリティのもつ実践的意義を多角的に検討していく。</p>	
<p>b. 内容・構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>第1回「スピリチュアリティとは何か」 ～ スタジオでの講義(石丸昌彦)</u> <ul style="list-style-type: none"> ◇ WHOの健康の定義(1948)は健康を「身体的・精神的・社会的に申し分のない状態」と定義するが、ここに「スピリチュアル spiritualにも申し分のない状態」と追記すべきであるとの提案が1998年に為された。この頃から健康におけるスピリチュアリティの重要性が注目されている。 ◇ 「スピリチュアル」という言葉は日本語の中に定着していないが、緩和ケアなどの現場では人生と病苦の意味をめぐる「スピリチュアルペイン」と、これに対する「スピリチュアルケア」が日常的な課題となっている。そしてこのことは緩和ケアに限らず、全人的医療一般のテーマでもある。 ◇ 老年期に心身の能力が衰えることは避けがたいが、逆に「目に見えないもの」への感受性が高まり、「老年的超越」と呼ばれるスピリチュアルな成長が期待できるとの指摘がある。スピリチュアリティの観点からは、老年期は単なる衰退の時期ではなく、統合と完成の段階である。 ◇ 幼児期や学童期の全人的な成長を考えるうえで、スピリチュアリティは重要な着眼点である。「人は死んだらどうなるのか?」といった子どもの素朴な疑問を受けとめ、命に対する感受性と畏敬を養うことが、子どものスピリチュアリティを成長させ不条理に耐える力の土台をつくる。 ◇ スイスで始まり日本でも拡がりつつあるデスカフェの実践について紹介する。 ● <u>第2回「健康への実践とスピリチュアリティ」 ～ インタビュー、ディスカッションとまとめ</u> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 健康生成論などの積極的健康観においてスピリチュアリティのもつ意義や可能性、とりわけレジリエンスやSOC(首尾一貫感覚)などストレス耐性との関連について、戸ヶ里泰典教授に伺う。 ◇ 超高齢社会の現実、とりわけ認知症高齢者が増加し、多くの高齢者が認知症への不安を抱えて生きる中で、スピリチュアリティに着目することがいかに人々の不安を軽減し、幸福感を促すかについて、井出訓教授に伺う。 ◇ 人生の目的や命の尊さについての言説が大量に発信される一方、戦争や犯罪、虐待などで多くの命 	

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

<p>1) 番組名(グループ名)</p> <p>BSキャンパスex特集</p>	<p>2) 個別番組タイトル</p> <p>「放送大学教材を用いた先取り学習の可能性 ～千葉県立長生高校の挑戦～」</p>
<p>3) 放送回数、期間、マルチ展開など</p> <p>4年40回</p> <p>インターネット配信公開講座(AOBA)へのマルチ展開を希望する。</p>	<p>4) 番組尺、本数</p> <p>45分 × 1本</p>
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>本番組の目的は、千葉県長生高校(スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校)で行われてきた放送大学教材を用いた大学先取り学習の取り組みを記録として残し、放送大学の教材活用による大学先取り学習の高校教育における意義を広く社会に周知することにある。</p> <p>この長生高校の取り組みは、教学 Vision2027 アクションプラン「他大学等との連携・単位互換方式の推進」に記された「高大接続の観点からの高校教育との連携を視野に入れた教育活動」に関連し、学内経費^{注1}により、2022年度～2024年度と3年間にわたり実施されてきたものである(2024年度は最終年度)。</p> <p>注1: 2022年度・2023年度放送大学学習教育戦略研究所研究課題「放送大学教材を用いた高校生対象先取り学習(早期履修制度)の試行」(研究代表者 岩崎久美子)、及び2024年度次世代教育研究開発センター研究開発課題「特色ある高等学校における放送大学教材を用いた先取り学習の推進」(研究代表者 加藤和弘)</p> <p>*****</p> <p>【プロジェクト内容】</p> <p>千葉県立長生高校で希望する者に下記の取り組みを依頼して実施。</p> <p>タイプ1: 放送教材のモニター生(夏季休業期間中)(継続事業3年目) ※2024年度35名受講(実施中)</p> <ul style="list-style-type: none"> 放送大学のOCWで公開されている授業科目を対象とする。高校教員(校長、担当教員)と協議のうえ、モニター受講を希望する生徒に1科目を選択してもらい、該当する科目の印刷教材を生徒に供与、全15回の放送授業をOCWで視聴してもらう。 <p>タイプ2: 第2学期科目履修生(継続事業2年目) ※2024年度7名受講希望予定(8名になる可能性あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 科目履修生として希望する1科目を受講、単位認定試験等を受験、試験合格者に放送大学の単位付与。 <p>*****</p> <p>【学術性】</p> <p>これまでの取り組みに関する調査・研究結果から、放送大学が提供する高校生への大学の先取り学習は、大きく三つの意義が確認されている。</p> <p><u>1. 大学進学を希望する生徒に対するキャリア・ビジョンの提供:</u> 大学教育にイメージを描きづらい大学進学第一世代(保護者が大学教育を受けていない生徒)や地方進学校などに、放送大学を例として大学教育の多様な内</p>	

容を提示し、生徒が大学での専攻決定の際の進路指導に資する大学教育の疑似体験の機会を提供。

2. 総合的な探究の時間への資料・教材提供：高校で行われる総合的な探究の時間では、自ら問いを立て問題を解決する力を養成することが求められるが、このことは大学教育の目的や方法と合致する。放送大学の教材を有効活用することで高校教育と大学との知の連続性が担保される。

3. 高校教員の現職教育に対する波及効果：高校教員は多忙であり専門性の向上の機会を逸することが多い。放送大学の教材活用のために生徒と活動することは高校教員の現職教育の一環となる。

調査・研究の詳細については、下記を参照のこと。

2022 年度報告書

<https://drive.google.com/file/d/1VUOMBaZ5VZNBq9DVkGrzzplm7vipM8xr/view?usp=sharing>

2023 年度報告書

<https://drive.google.com/file/d/1imcRI23ZVfG3UKBUyYqPOTPZrwlt--Ys/view?usp=sharing>

【公益性】

高大連携・高大接続（カリキュラム上）の議論に資する事例として、長生高校の取り組みの有する教育的意義を広く社会一般に伝えると同時に、放送大学の高校における大学先取り学習の意義や事業化の方向性を考える記録資料とする。

【経済性】

「キャンパスガイド」で使用する素材を共有するなど、経費と労力の削減を最大限考慮する。

b. 内容・構成

「キャンパスガイド」用に制作する内容を一部転用^{注2}。

注2：「キャンパスガイド」の取材手続きが進行中。今後、生涯学習支援番組に申請するにあたり、「キャンパスガイド」担当の長谷川ディレクターに相談したところ、素材の一部提供を想定し、生徒、教員に対する「キャンパスガイド」と「生涯学習支援番組」の双方を含んだ取材承諾書の一括取得手続きを行っている。

【現時点での内容・構成】

○スタジオでアナウンサーが下記の要素を VTR で紹介しながら進行していく。

1. プロジェクトの概要説明

2. 教学 Vision2027 高大連携・高大接続（カリキュラム）へのアクションプラン説明（学長）

3. 長生高校ロケ（2024年8月26日（月））→制作部「キャンパスガイド」制作のため現地調査に同行（長谷川昌代ディレクター）

・長生高校において、本学次世代教育研究開発センター研究開発課題プロジェクトメンバーによりインタビュー調査を実施。

《「キャンパスガイド」収録予定内容》→この素材を一部使用。

①長生高校風景

②インタビュー調査風景

③印刷教材が配架された図書室の様子

④タイプ1（放送教材のモニター生（夏季休業期間中））の学習風景

⑤インタビュー（校長、担当教員、タイプ1（放送教材のモニター生（夏季休業期間中））、3年前の受講生で大学生になった卒業生）

4. 放送大学ロケ（2024年12月11日（水））

・タイプ2（第2学期科目履修生）の生徒が校長、担当教員とともに放送大学に来訪。生徒がインタビュー調査に応じるとともに施設見学（総合図書館、スタジオ、編成室等）予定。

《収録予定内容》

①長生高校によるプロジェクト内容についてのプレゼン風景（他高校担当教員を招聘し会議開催を予定）

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

<p>1) 番組名(グループ名)</p> <p>BSキャンパスex特集</p>	<p>2) 個別番組タイトル</p> <p>(仮)世界のアニメーション史と技術</p>
<p>3) 放送回数、期間、マルチ展開など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送：4年40回 ・インターネット配信公開講座等のオンライン展開も可能な範囲で希望 	<p>4) 番組尺、本数</p> <p>45分 × 1本</p>
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>世界のアニメーション史の中で、各時代の起点となった各国の重要人物に焦点を当てながら考察する。フランスで疑似アニメーションが世界で初めて劇場公開されたのは19世紀。その後、各国・地域における文化的背景や技術水準を基にアニメーションは多様に発展していった。この番組では、アニメーションが育まれた過程を主に技術の発展とともに解説する。パワーポイント等の要約を用いて各国の制作された歴史を比較しつつ講義する。</p> <p>番組では、主に3つの観点を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の文化としてのアニメーションの見識を深めること 2. 世界のアニメーションに関する知識を通して、映像作品や音楽作品等の技術の変遷を理解すること 3. 世界のアニメーション史の考察やアニメーション技術の知識等を学習して、これらの史実や技術を通して、時代ごとや国ごとの特色の変遷も理解する 	
<p>b. 内容・構成</p> <p>この番組では、著作権処理が可能な映像を使用しながら、放送大学のスタジオで石川所長が時代ごとのアニメーションの鑑賞によるそれぞれの変遷を解説・考察していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界各地のアニメーション通史を学ぶ。まず、北アメリカのアニメーション史として、USAを中心に、ウォルトディズニーとフライシャー兄弟のアニメスタジオやWBのスタジオについて、さらにカナダのカナダ国営アニメ制作部門についても考察する。 ○西ヨーロッパのアニメーション史として、フランスを中心にベルギー、オランダなどヨーロッパアニメの盛んな地域とイギリスを中心にロンドンの商業アニメーションやドイツなどについて解説する。 ○東ヨーロッパやロシアのアニメーション史として、チェコ、クロアチアなどのアニメーションの盛んだった国々やロシアの人形アニメーションや政治プロパガンダの普及を識字率の低さ故にアニメーションを用いた独特の表現に至る発展について考察する。 ○アジアのアニメーション史として、日本を除いて、最初にアジアで劇場長編アニメーションを制作した中国やアジア諸国のアニメーションについて概観する。 	

c. 取材対象	ロケ取材 : 無
<p>d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）</p> <p>石川善朗所長（青森学習センター）、聞き手 古橋元（放送大学教授）</p> <p>石川善朗先生は、弘前大学教育学部教授を経て現職。世界に発信！津軽「うるおい、うるわし」事業プロジェクト委員、ファッション甲子園ポスター審査委員、日本酒「縄文明水」ラベルデザイン、「津軽打刃物」ブランド展開プロジェクト新製品デザイン開発、ブナコ照明器具木型開発、ブナコスピーカー製品開発等に携わった豊富な経験と教育経験がある。またその経験の下で、現在もプロダクトデザインだけでなく日本と世界のアニメーション史等について弘前大学で複数の講座を持たれ、青森学習センターでも同様の講座を開いている。</p> <p>（参考）https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/syllabus/syllabus_2024/syllabus_2024_02/02/02_3241240010_ja_JP.html,</p>	
<p>6) 主体性の確保</p> <p>企画提案者の石川所長が主となって、番組の企画、全体の構成、内容の設計を行うとともに、台本の確認、事前準備等の各段階において、責任教員の古橋元もコミュニケーションを取りながら参画して、本学としての主体性を確保する。</p>	
7) 制作予定期間	契約締結日～令和7年2月28日
8) 演出上の特記事項	著作権処理が可能な映像等を利用
9) 字幕制作希望	有

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

<p>1) 番組名(グループ名)</p> <p>BSキャンパスex特集</p>	<p>2) 個別番組タイトル</p> <p>芭蕉 最後の1年半 — 『おくのほそ道』 から最後の句へ</p>
<p>3) 放送回数、期間、マルチ展開など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4年 40回 ・ インターネット配信公開講座 (AOBA) へのマルチ展開を希望する 	<p>4) 番組尺、本数</p> <p>45分 × 1本</p>
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>芭蕉は、滑稽な連句の俳諧を不易の文藝に高めることに生涯を掛けたが、晩年1年半の俳諧の深化は目覚ましい。4年前から課題であった奥羽行脚の紀行文『おくのほそ道』を執筆し、古典を踏まえつつ旅の中で悟った「不易流行」を反芻し、5部の構成で、時が流行する中で各自が自らの運命を受け入れて真摯に生きるころにあはれが見出せることを作品にして表現した。この作品が出来る見通しついた故に、芭蕉は元禄6年10月(死の1年前)、古典とは無縁の庶民の日常に見出す〈あはれ〉を普段の言葉で詠む「軽み」を唱えるようになる。</p> <p>芭蕉は弟子達と一緒に36句の連句で「軽み」を指導し、撰集『炭俵』を作り、半年前には上方に戻って『続猿蓑』を編集して定着させることになる。1か月前の最後の旅では老いと死を自覚した深い人生句を詠んだ。</p> <p>それまでの俳諧では自己の感懐を詠むこともなかったが、芭蕉において、連句の最初の発句の5・7・5だけでも人生の〈あはれ〉を詠む詩的世界が確立した。芭蕉の最後の1年半に焦点を絞り、作品に籠めた思い、弟子達へ指導の実際、後代への影響を合わせて論じることによって、俳諧が文藝として確立して広まり、近代以後俳句が文学として成立する基盤となったことを見るとともに、俳句では切り捨てられた連衆と一緒に作る連句を持つ可能性と『おくのほそ道』が持つ思想的 content、「軽み」の極致の死生観を表す最後の句を明きらかにしたい。</p> <p>2018年度特別講義「『おくのほそ道』の真髓—芭蕉自筆本に基づく新研究」、専門科目『文学・芸術・武道にみる日本文化(19)』第12回の内容をさらに深めて展開する。コラム OIJ で芭蕉記念館の特別展を収録した映像も利用。同じ演題での公開講演会(文京SC)、面接授業(千葉SC)の成果も活用する。</p>	
<p>b. 内容・構成</p> <p>芭蕉は元禄7年(1694)10月に旅の途上大坂で亡くなった。その1年半前の元禄6年3月に、庵に引き取って看病していた結核の甥を失って茫然自失だったが、その新盆の1か月間弟子の庵への出入りを禁じて、4年前の奥羽行脚の紀行文『おくのほそ道』を執筆し、上質紙に清書した。1年前の10月から、日常生活の中に美を見出す「軽み」を展開する。商家の手代らと『炭俵』歌仙を巻き、能楽師らとは『続猿蓑』歌仙も始めた。一方、自筆で清書した『おくの細道』を76枚もの貼紙して修正、3頁裏裏全てを書き直し、その修正版を弟子に清書させた本でもさらに直して、書家による清書本が完成したのは元禄7年4月であった。</p> <p>その清書本を持って伊賀に帰郷し実兄に贈ったのは、5月で死の半年前である。4ヶ月余り近江や京都など上方の弟子にも「軽み」を説いた。盆には故郷に戻って『続猿蓑』の編集を完成させた。</p> <p>死の1か月前、9月8日大坂へ旅立ち、不調の中、多くの俳席で指導したが、9月末終りに病臥した。10月7日急の報せに弟子たちが集まった。8日深夜「病中吟」として〈旅に病んで夢は枯野をかけ廻る〉を口述したが、翌朝弟子二人を呼び、6月の句を改めたとして〈清滝や波に散り込む青松葉〉を書き留めて必ず伝えよと語った。</p>	

翌 10 日夕方容態が急変、去来に書家の清書本を譲ると遺言し、10 月 12 日に没した。

没後 8 年、去来はその本を基に『おくのほそ道』を刊行、蕉門に配った。没後 77 年に再刊されて以後、一般に広まっていき、芭蕉復興の運動が盛り上がり、芭蕉・蕉門の多くの俳書が刊行されることになる。

芭蕉は、30 余年の修練で絶えず深めて、俳諧を言葉遊びから不易の文藝へと高めたが、最後の 1 年半の深化は劇的である。1996 年に発見された芭蕉自筆『おくの細道』や最後の句の研究を基に、芭蕉が遺したものを、330 回忌の今年考えてみる。

演出

芭蕉記念館で収録し、所蔵の 300 年前の貴重書の該当箇所を撮影を行う。

内容の構成の目安（計 43 分）

- I. 芭蕉の生涯の概観と晩年 1 年半の事績（2 分）
- II. 1 年 3 か月前『おくのほそ道』執筆、自筆本の執拗な訂正と書家の清書で隠された芭蕉の意図(18 分)
- III. 1 年前から「軽み」を高唱し江戸の手代らと庶民の日常生活に見出す美を表現。撰集『炭俵』(4 分)
- IV. 半年前から上方の門人に「軽み」を指導、古典も踏まえた作品も合わせた『続猿蓑』を編集（3 分）
- V. 1 月前最後の旅に出たが病臥。門人集る。4 日前最後の句、翌日『おくのほそ道』を譲る遺言(10 分)
- VI. 没後蕉門の展開 遺句文収集、『おくのほそ道』刊行、俳論集成、蕉風伝播、没後 80 年復興（6 分）

c. 取材対象 ロケ取材 有り

江東区芭蕉記念館（東京都江東区常盤 1-6-3）

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

講師・魚住孝至 朗読ナレーター（芭蕉の作品と弟子の記載の一部）

6) 主体性の確保

放送大学教員が全体の構成台本を作成し、講義することによって、放送大学の主体性を担保する。

7) 制作予定期間

契約締結日～令和 7 年 2 月 28 日

8) 演出上の特記事項

芭蕉の書状（死の 1 年半前、1 年前、半年前、1 か月前）を使う／『おくのほそ道』芭蕉自筆本の徹底した修正と書家の清書本で完成。生前弟子に見せず、臨終去来へ譲る遺言に籠められた意味を考える／芭蕉の撰集『猿蓑』（4 年前）、『炭俵』（半年前）、『続猿蓑』（1 か月前）の成立事情と性格を明確にし、芭蕉の代表句を示す／芭蕉の臨終場面を伝える弟子の『笈日記』の該当箇所を示し朗読／芭蕉没後 8 年『おくのほそ道』刊本と没後 77 年の再刊本で一般化

9) 字幕制作希望

有

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

<p>1) 番組名(グループ名)</p> <p>BSキャンパスex特集</p>	<p>2) 個別番組タイトル</p> <p>ゆっくり学び、僕らは成長する ～知的障害者のための高等教育～</p>
<p>3) 放送回数、期間、マルチ展開など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送：4年40回 ・インターネット配信公開講座(AOBA)へのマルチ展開を希望する。 	<p>4) 番組尺、本数</p> <p>45分 × 1本</p>
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>日本では、知的障害者のための高等教育の場が極めて限定的である。大多数の知的障害者は、義務教育課程である特別支援学校卒業後に作業所や就労に移行する。しかし社会経験やコミュニケーション能力が十分に涵養されていないため様々な困難に直面し、結果として定着率は低くまた再就職が困難になることが多い。問題意識を持つ教員や個人によって大学の「オープンカレッジ」や自立訓練事業型の「福祉型専攻科」などの取り組みはあるが、極めて属人的で予算や人材の安定的確保に課題があり、全国的なノウハウの蓄積や共有、継承が困難である。</p> <p>一方、知的障害の教育で世界的に著名な米国 Think College の報告では、時間をかけて適切な支援をすれば、知的障害者が知的にも社会人としても大きく成長することが実証されている。米国では50以上の大学で知的障害者を受け入れており、韓国では知的障害者の高等教育を教育の柱にすえている大学もある。</p> <p>この番組では、知的障害者の高等教育についてロケ映像やインタビューをもとに日本の現状を紹介する。また海外の事例を紹介しながら、日本の知的障害者のための高等教育の今後の課題と方向性を探っていく。</p>	
<p>b. 内容・構成</p> <p>○特別支援学校の現状と課題</p> <p>現在、特別支援学校で卒業後に向けてどのような学習、就労支援が行われているか、ロケ映像とインタビューで紹介する。(千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 or 千葉県立特別支援学校流山高等学校)</p> <p>○日本の大学の取り組みの紹介</p> <p>神戸大学のオープンカレッジ、ゆたかカレッジなど自立訓練事業型の「福祉型専攻」の取り組みを、ロケ映像とインタビューで紹介する。</p> <p>○アメリカの取り組み</p> <p>アメリカ・ボストンに拠点を置く Think College の取り組みについて紹介する。Think College は知的障害のある学生のインクルーシブ高等教育のための研究・実践を目的とした全国的な支援組織である。アメリカ教育省が資金提供するモデル実証プロジェクト TPSID などを展開している。</p> <p>実践例の一つとしてハワイ大学の取り組みを見る。ハワイ大学では、学生は今ある授業でとりたてたいものをとる。そこにメンターやコーチが関わり、勉強方法や質問方法、セルフアドボカシーなどのスキルを高めて</p>	

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

1) 番組名(グループ名) スペシャル講演	2) 個別番組タイトル スペシャル講演
3) 放送回数、期間、マルチ展開など ・4年 40回 ・インターネット配信公開講座(AOBA)へのマルチ展開を希望する	4) 番組尺、本数 45分 ×2本
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>放送大学が誇る講師陣によるスペシャル講演。退職される先生を中心にシリーズとして制作・放送し、ベテラン教授陣により各分野の興味深い内容が聞けるシリーズとして好評を博している。</p> <p>今回は今年度をもって退職予定の学習センター所長2名の、アカデミックでかつ内容の濃い講演の模様を伝える。</p> <p>今年度は昨年度退任した前千葉学習センター所長の片岡洋子氏の「スペシャル講演」を企画提案、採択済みであり、制作本数は計3本となる</p>	
<p>b. 内容・構成</p> <p>○「生活シーンと視覚特性を考慮した日・年周期での動的な光環境の最適化システムの究明」 (奈良学習センター 井上容子所長)</p> <p>明視性と雰囲気性に優れ、生活リズムを乱さない質の高い光環境の維持は、照明計画の目指すところであり、ストレスのない視環境を実現し、誰しもが健康で自立した生活を支える上での要だ。そのためには、生活シーン、視覚特性とその加齢変化、および生体リズムに配慮した随時の動的な光環境の適正化が希求され、システムの実装は自ずと無駄な光エネルギー消費の削減につながる。</p> <p>光環境、即ち照明を一日または一年という時間軸の中において、視覚の順応特性に配慮したストレスのない動的な適正化システムを構築するには、ソフトとハードの両面からの取り組みが必要だ。本講では、主に解明すべきソフト面での事象、たとえば光と人の関係を、生活シーン、光の時空間分布、概日・概年リズム、および加齢・個人差などの観点から取りあげ、その究明の現状を紹介する。</p> <p>○「海の中には“非常識”がいっぱい！ ～陸上とは大きく異なる海の生態系と物質循環」 (高知学習センター 深見公雄所長)</p> <p>海の生態系は、私達が普段目にして陸上のものとは大きく異なっているが、その詳細が少しずつ分かってきたのはつい最近のことだ。本講演では、海洋生態系における食物連鎖の基礎(“常識”)から、近年次々と明らかにされてきた、これまでの常識では考えられないような驚くべき物質循環の新事実(“非常識”)にいたるまで、多様で不思議な海の生態系と、そこでくり広げられる興味深い食物連鎖について解説し、人類の未来を左右するといっても過言ではない海の役割について解説する。</p> <p>ここで聴いた話はきっと誰かに話したくなるはず！</p>	

c. 取材対象	ロケ取材 有り
奈良学習センター（奈良県奈良市）、高知学習センター（高知県高知市）	
d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）	井上容子所長（奈良学習センター）、深見公雄所長（高知学習センター） 各回1名（計2名）
6) 主体性の確保	学習センター所長の講演を放送大学として番組にするもので、主体性は確保されている
7) 制作予定期間	契約締結日～令和7年3月31日
8) 演出上の特記事項	無
9) 字幕制作希望	有